

第6回 統計委員会委員と統計利用者との意見交換会について
～グローバル化が進展する中で日本経済の中長期展望に必要な統計整備～

平成 24 年 2 月 16 日
内閣府統計委員会担当室

1. 背景及び目的

経済のグローバル化が益々進展し、我が国を取り巻く国際経済環境は大きく変化している。アジアを中心とした新興国の存在感がより鮮明になる中、企業の国際的な生産ネットワークや世界の金融・経済ネットワークの緊密化が加速している。製造業においては、例えば、東日本大震災による被災地域の生産活動の停滞が国内外の生産拠点へのサプライチェーンに想定外の影響を及ぼし、さらに、最近の円高の進行を受けて空洞化の懸念が高まっている。また、食料・農業分野においても、世界全体での人口増加や経済成長に伴う食料資源需要の拡大などが進展しており、既に食料の多くを輸入に依存している日本にとっては、食料需給の不安定性が継続している。

少子高齢化、デフレの長期化に加え、震災からの復興、原子力発電所の事故に伴うエネルギー制約など、国内的に多くの難題を抱える我が国が、このようなグローバル化による経済・社会環境の変化に対応し、着実な経済成長を実現していくためには、企業の国際化の動向、生産ネットワークや貿易構造の変化、食料・農業をめぐる国内外の情勢等の影響を的確に把握した上で、中長期的な日本経済の将来動向を見通していくことが重要である。

このような背景から、経済のグローバル化の進展による影響を的確に捉え、日本経済を中長期的に展望していくために必要な統計整備に資することを目的として、統計委員会委員と統計利用者との意見交換会を開催する。

2. ご説明・ご意見を伺う統計利用者

○原田 泰 大和総研顧問・東京財団上席研究員

「中長期展望で重要ないくつかの項目」

○石田 信隆 農林中金総合研究所理事研究員

「国際化の進展の下における食料・農業統計整備の課題について」

3. 意見交換会の論点

①企業の国際化に対応するための統計について

企業活動のグローバル化の動きが高まっているが、我が国企業の国際化の動向やその影響を分析するために、どのような統計整備の方向性が考えられるか。

②食料・農業の国際情勢と日本農業の位置づけを把握するための統計について

世界的な食料需給状況等を踏まえつつ、国際的視点から日本の食料事情や農業の現状を的確に把握するためには、どのような統計整備の方向性が考えられるか。

③グローバル化の中で日本経済の中長期的展望に必要な統計について

グローバル化が進展する中で、日本経済を中長期的に展望していくために、どのような統計整備の方向性が考えられるか。

(参考)

「公的統計の整備に関する基本的な計画」(平成 21 年 3 月 13 日閣議決定)における
統計利用者との意見交換会に関する記述

本文 第 3 3 (1) 統計ニーズの継続的な把握・活用

ア 現状・課題等

- ③ 府省横断的なニーズについては、統計委員会が統計利用者との意見交換を随時実施し整理・検討を行った上で、その結果を関係府省における統計の整備及び提供や基本計画の見直し等に活用すること。

イ 取組の方向性

統計ニーズを的確に把握するため、従来から各府省が実施してきた個別の取組に加え、統計利用者の要望等を幅広く把握するとともに、統計利用者との意見交換の場を設け、府省横断的な統計等の整備・改善に反映する。

別表 今後 5 年間に講ずべき具体的施策

項目	具体的な措置、方策等	担当府省	実施時期
3 経済・社会 の環境変化 への対応 (1) 統計ニ ーズの継続 的な把握・活用	○各府省の政策部門、関係学会、経済界等の統計利用者との意見交換を随時実施し、府省横断的な統計作成基盤の整備、新たな統計の整備等を中心とした統計利用者のニーズへの対応について絞り込んだ検討を行った上で、その結果を関係府省における統計の整備及び提供、基本計画の見直し、諮問事項の審議等に活用する。	内閣府(統計委員会)	平成 21 年度から実施する。